

会議録

会議の名称	子ども子育て審議会児童館等再編成専門部会（平成30年度第4回）
開催日時	平成30年11月9日（金曜日）午後7時から8時まで
開催場所	西東京市役所イングビル 第3・4会議室
出席者	【部会員】 林部会長、大橋部会員、尾崎部会員、島崎部会員、蓮見部会員 【事務局】 子育て支援部長 保谷、児童青少年課長 原島、児童青少年課長補佐 國府方、保谷柳沢児童館長 増田、田無柳沢児童センター長 町田、児童青少年課児童青少年係 高橋、小林
議題	議題1 （1）改正児童館ガイドラインとの整合性について （2）子どもへの意見聴取結果について 議題2 その他
会議資料の名称	資料1 児童館等再編成方針（素案）修正版・修正箇所 資料2 児童館ガイドラインの改正について 資料3 西東京市子ども条例 ※参考資料1 アンケート集計結果
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題1．（1）改正児童館ガイドラインとの整合性について （資料1「児童館等再編成方針（素案）修正版」に基づき事務局から修正点を説明） ○事務局： 平成30年10月に改正された「児童館ガイドライン」を踏まえ、児童館等再編成方針（素案）の修正版を作成した。修正箇所及び追加資料については以上のとおりである。 （資料2「児童館ガイドラインの改正について」に基づき事務局から修正点を説明） ○事務局： 平成30年10月に改正された「児童館ガイドライン」の改正点は以上のとおりである。 ○林部会長： 2Pの過去の来館者数について、具体的な数字を入れた方が良いのではないかと。 5Pの中高生年代対応について、アンケート収集時に実際に聞き取った内容を入れた方が良いのではないかと。 ○尾崎部会員： 11Pの訂正箇所「専門家」から「専門機関」に変更があったが、意図を知りたい。 支援機関、地域資源等との連携を強化とあるが、現状はどんな連携を行っているか。 ○事務局： 子ども家庭支援センターとの連携を行っているが、子ども家庭支援センターは専門家というより専門的な機関であることから、正しく記載を変更した。 連携については、児童館から直接連携するケース、児童青少年課を通じて連携するケース、子ども家庭支援センターから連携を求められるケース、様々なパターンで連携を行っている。 ○尾崎部会員： 学童クラブからはどうか。また、子ども家庭支援センターでは、学童クラブ内での集団生活に困難を伴う子供や障害児の支援についての相談にも乗ってもらえるのか。	

○事務局：

学童クラブの場合、所管の児童館の館長を通じて連携を行う場合が多いと思われる。

近隣の苦情から判明したケース等で、児童青少年課から子ども家庭支援センターに情報提供を行い、連携を行うケースもある。

子ども家庭支援センターとの連携の方法については、定期的に巡回してくるというスタイルではなく、児童館や学童からの情報提供に対して連携を行うスタイルである。

障害児の場合は、専門に配属されている職員が対応しているが、職員だけでは対応が困難な場合等は、子ども家庭支援センターや教育相談と連携することもある。

○林部会長：

「児童館等再編成方針」は、結果のみ公開されるのか。検討経過も公開されるのか。

○事務局：

現時点では、公開の方法を含め、検討中である。

議題 1. (2) 子どもへの意見聴取結果について

(資料 1 及び参考資料 1 「アンケート集計結果」に基づき事務局から要点を説明)

○事務局：

「子どもへの意見聴取」として、市内の中高生に対してアンケートとヒアリングを実施した。「児童館等再編成方針」「アンケート集計結果」を参照してもらいたい。

○島崎部会員：

アンケートには表れていないが、南部地域には西東京市の施設が少ないため、武蔵境駅周辺にある武蔵野市の施設を利用しているという意見を聞くことが多いように思う。

勉強スペースや自習室を求める声が多いが、勉強に限らず、他人の存在を感じつつも一人でゆっくり出来るスペースを求めているように思われる。

○林部会長：

家ではなく、他人がいるけれど、一人になれる場所に出向くのはなぜだろうか。

○島崎部会員：

家では完全に独りきりだからではないか。他の家族がいて、自室に独りという環境と、家族が少なく、家に誰もいないので独りというのは違う。今の子どもは、人との繋がりを求めつつも、大人数で遊びたいわけではないと考えるようである。

○大橋部会員：

我々の年代から考えると不思議な気がするかもしれないが、確かに今の子どもは「何となく誰かがいる雰囲気の中での独り」という環境を求めているように感じる。

○林部会長：

確かに、アンケートの結果にも「児童館を利用する理由」について「スポーツをする」という理由に比べれば少ないが、「何となく」という回答が一定数存在する。

実際、児童館には、このような子どもが来所しているのかを教えてもらいたい。

○事務局：

児童館に一人で来館する中高生の中でも、「みんなを感じられる場所で自由にしたい。」という子どもは、多数ではないものの存在している。

○林部会長：

この様な子どもに対して、児童館職員はどのように接しているのか。

○事務局：

あいさつや関心のある話題を話しかけることでコミュニケーションを図りつつ、当該児童が求めているものを感じるようにして対応している。

- 林部会長：
児童館が、「誰かがいてくれる」安心感を与える場になっていることが理解できた。
- 蓮見部会員：
一人で来館する子どもは、児童館で何をして過ごしているのか。
- 事務局：
読書をしたり、漫画を描いたり、スマホでゲームをしたりして過ごしている。
バスケットゴールでシュートの練習を続けている児童もいる。
- 蓮見部会員：
児童館が、心の拠り所のような場所になっているのは、すごいことだと思う。
- 林部会長：
何かあったときに安心できる場所が、家以外にあるのは大事なことだと思う
- 尾崎部会員：
ヒアリングの中で児童館のイメージについて尋ねると、「武蔵野プレイス（みたいな所）」という回答があった。武蔵野プレイスは、コミュニティーセンターというか、図書館やカフェの入った武蔵野市の大規模な複合施設なので、あの規模を期待されると特化型児童館が完成したとしても、子ども達が落胆しそうで不安である。
- 林部会長：
逆に、想定できるものがなく、全く別のものと比較しようとしているからこそ必要なのだという考え方も出来るのではないかな。
- 尾崎部会員：
アンケートの回答では、カフェや食事の出来る場所についての要望が多い。
- 林部会長：
既存の特化型児童館では、飲食が出来るのか。また、飲食物の購入は出来るのか。
- 事務局：
飲み物の自販機は設置している。食べ物は持込んだものを食べることは可能である。
- 林部会長：
中高生にとって飲食は大事な要素である。他自治体ではキッチンを使える所がある。
今回、検討した事案は、素案に反映した上で、次回の部会で確認させてもらいたい。

議題 2. その他 (質疑なし)

専門部会の今後のスケジュールについて

- 事務局：
第 5 回の専門部会は平成30年12月18日（火）午後 7 時～、田無庁舎 5 階503会議室を予定している。
(異議なし)
また、延期された中高生プロジェクトの第 2 回スタッフ会議が平成30年11月16日（金）午後 7 時～、田無児童館で開催される。
会議開催前にヒアリングを実施するので、都合の良い方は参加をお願いしたい。
- 林部会長：
以上で、本日の会議は終了とする。
- 閉会

